



以前、故塩田館長先生には熱海温泉のホテルで講演をいただいたが、その後日本IBM社の知人に働きかけたら、静岡県掛川市にある「ヤマハリゾートつま恋」でIBMユーザーの中間管理者向けのセミナーがあるということなので、そこで塩田館長の講演をしてもらうことに話がまとまった。私からは二度目の講演依頼であった。

さっそく千田師範 現、本部道場長 に連絡をとり許可を頂いた。

当時は安藤師範 現、合気道「龍」代表 が、館長の外出時の運転を担当されており、途中で待ち合わせて三人で「つま恋」に向かった。

館長先生は上機嫌で東京から静岡まで、殆どしゃべり放しであった。

私はそのエネルギーに圧倒されていたが、会場に着くとIBM担当者の出迎えを受け、一呼吸置いて、すぐさま演壇に上がった。

会場には30～40歳代の各企業の部課長クラスばかりが、約200人ほど座っていた。企業の部課長クラスは経済社会の中でも、又人生の中でも一番油の乗りきっている時代であろう。しかしながらそれぞれの会社の中では責任のある立場で仕事をしており、上層部の役員と一般社員の間にはさまれて、結構ストレスがたまる地位である。

塩田館長は車の中で約2時間も、いろいろな面白い話を私に聞かせてくれたのに、会場に着くと更に1時間半も話しまくった。すごい活力ではないか。

講演が終わり頃に近づくと、突然、安藤先生を手招きし壇上に上がらせた。

ワイシャツをまくり上げた安藤先生が近づくと、二ヶ条、三ヶ条、四ヶ条と立て続けに技を仕掛け、ついには投げ飛ばした。

演台はかなり広く作られてあったので、舞台から落ちる心配はなかったのだが、畳が敷いてあるわけではなく、すべて板張りであった。

受身を取るときの手音が会場内にバーンと響く。内弟子の先生方は大変なんだなと思って舞台のすそで見ていたら「杉本さん、なにをしている。その前の方に座っている人たちに体験をさせてあげなさい」と命令が下った。

今まで、面白い話をする人だなあと思って聞いていた会場の部課長たちは、突然壇上でバタバタと動きが始まり、あっ気にとられていたら、今度は前席に座っている人たちは安藤先生と私に、会場の両端から次々に二ヶ条締めを極められた。

「痛い！」なんて声があちこちであがるものだから、いったいなにが始まったのかと、後ろの方の人たちは立ち上がって覗きこんでいた。

その中には私の勤務していた会社からも、課長を2名、たまたま参加させていたのだが、会社にいる筈の上司が、こんなところで騒ぎの元を作っているものだから、鳩が豆鉄砲を喰らったような顔をしていた。今、思い出しても楽しい一日であった。